

若者が社会を変える！

宮崎・東諸県支会代表 宮里 航士

私の思いを述べる前に少しだけ私の個人的な話から始めさせてください。

まずは明けましておめでとうございます。皆さまはこの年末年始はいかがお過ごしでしたか？私は昔からの友達と久しぶりに会ったり、一緒にお酒を飲んだりと楽しく過ごすことができました。そこでの苦労したことで私が幹事をしていたのでなかなかのお店にするかや予算はどれくらいにすればいいのかが決まらず、人数が多くなると更にまとまらずに悩みました。結果としてその解決策は日頃から一緒に飲むことのあった当日も参加する友達に相談して、考えを固めるという方法になりました。おかげでお店もコースも決まり、楽しい時間を過ごすことができました。

少し長い身の上話になってしまいましたが、実はこの話の中に私の「選挙」への考え方が入っています。現状、若い年代の選挙投票率は他の年齢層に比べて低いというのはこの場で改めて述べる必要のない程周知の事実であり、これまでも多くの議論が重ねられた課題です。これから述べる考えは若者が選挙に対して積極的になるような新しいイベントや取り組みというよりかは私なりに若者が選挙についてこのような視点をもつと前向きになるのではないかというものになります。

まず、何か物事を決めるというのは難しいものです。自分だけが関係するものであっても予算や時間といったものに縛られながら決めなければなりませんし、そこに他者が関係すればそれぞれの要望や状況にも縛られてその中で決めなければなりません。私の先ほどの話で言えば、参加者それぞれの食べたいもの、嫌いなもの、お金はどれくらいにしたいかなど要望がばらばらな状況がまさにその例です。ですが、これは日本に限らず、世界中の国の政治でも起きていることです。年齢・性別・職業がばらばらな状況にある人たちが自分たちのその状況にあったばらばらな要望を出す、自分が生きていくために自分の要望を出すこの行為は当然のものであり、誰もが自分たちに利益のあるようなそして不利益のない政策をしてほしいと思っているはずです。

ただ、このばらばらな意見をまとめる政治家は私が年末に陥ったように大変悩ましい状況になってしまいます。なので政治家もそのばらばらな意見の中でも賛同する人の多い、つまり自分に投票する人の多い政策や意見を掲げて、活動します。以前の投票に行っていなかった私であれば「結局は票集めが一番なのか」と不満をもち、更に投票に行くということから遠ざかっていました。ですが、考え方を考えてみてください。

い。自分が飲み会の幹事をして内容が決まらず迷った際に来る頻度が少ない人の要望は優先度が低く、ましてや当日来ない人の要望は聞きもしないはずです。選挙も同様に投票に来ない人に向けた政策を掲げても票が集まらず、日本の政治を動かすことができません。自分たちのニーズにあった政策をしてもらうには投票で私たちの意思を表明すること、私たち若い世代に政治家の目を向けさせることが不可欠です。

ですが、ここでも以前の投票に行かない私であれば「なぜ私たちが動いて目をこちらにむけさせなければならないのか。政治家の方からこちらの意見を拾おうとしてくれればいいのではないか。」とまた不満をもち、投票に行かないところでした。ただ、時代も移り変わり政治の方向性は若者にかなり向けられています。前回の衆議院選挙でもニュースでは若者の投票について取り上げられ、各党の政策も働き盛りの若者世代に利益があるよう賃上げや減税などが掲げられています。そして、中には若者の投票に行かない理由にある、「投票に行くのがめんどくさい・時間がない」というところにスポットを当て、ネット投票実現を掲げる政党もあります。また、日本だけでなくアメリカの大統領選でも若者の票を得ようと人気のインフルエンサーや SNS を使い、若い世代いわゆる Z 世代へのアピールが行われています。

極端な話ですが、現在日本だけでなく世界の政治の目が若者へ向けられ、私たちのための政策が掲げられていることが多いです。言ってしまうと、私たちに利益のある政策が通りやすい、飲み会の例で言えば幹事が悩んだ末に自分に相談してきている状況です。投票するしないはもちろん権利としてありますが、この状況で投票しないというのは自分の不利益になると言えるのではないのでしょうか？これからの日本の在り方を左右するのはこれから日本を支えていく私たちの手にあります。

締めくくりに、私は選挙に行く時間の都合をつけるなど多少の不便を感じることもあっても行ったことに後悔はありません。そして、今後も投票に行くことに不便を感じつつも行き続けると思います。それくらいの不便があっても行くだけの価値があると考えているからです。

ご清聴ありがとうございました。